

選奨土木遺産に対する住民意識の地域間比較に関する研究

秋田大学 学生会員 ○菅野 隼也
秋田大学大学院 正会員 鈴木 雄
秋田大学大学院 正会員 日野 智

1.はじめに

地域固有の文化・伝統・自然などを活かした地域づくりを目指していくための地域資源の一つとして土木学会選奨土木遺産が挙げられる。秋田県には4つの選奨土木遺産が存在しているが、それらが地域資源として利活用されているとは言い難い。選奨土木遺産の利活用の一つとして「教育の場、教育の題材」が考えられる。例えば、秋田県にかほ市の『上郷温水路群』は、小中学校の理科・総合学習において題材として扱われている。本研究では星ら¹⁾の研究との比較から、教育の題材として選奨土木遺産が扱われることによる、地域住民の愛着やイメージの差などを分析し、さらなる選奨土木遺産の利活用方策について検討する。

2.地域資源に対する住民意識調査の実施

(1)調査対象地域の概要

秋田県にかほ市は、平成17年の合併により誕生した人口約26,000人、面積約240km²の市である。にかほ市には、上郷温水路群、平成の名水百選にも数えられた元滝伏流水や、松尾芭蕉の訪れた最北端の景勝地として知られた象潟の九十九島など自然に関する地域資源も多い。上郷温水路群は平成15年度に「鳥海山からの融雪水による冷水害対策として、水路幅を広く、水深を浅くし、落差工を連続させた日本で初めての温水路であること」などの理由から選奨土木遺産に認定された。

(2)意識調査の概要

本研究では、上郷温水路群のイメージや愛着などの把握を行うために、にかほ市象潟町の住民を対象に意識調査を実施した。調査票は象潟駅前と上郷温水路群周辺の2地区に、400世帯800票を配布し、109世帯から155票の回答を得た。また、意識調査の実施にあたって、上郷小学校に対して上郷温水路群を扱っている授業内容などのインタビュー調査を実施している。

3.地域住民の上郷温水路群と授業の認知

上郷温水路群に対する住民の意識について質問している。上郷温水路群の認知度や訪問経験を図1に示す。上郷温水路群の存在を知っている被験者は約78%であり、多くの人に知られている。また、行ったことのある被験者は約66%となった。一方、選奨土木遺産に選定されたことを知っている被験者は約20%と少ない。

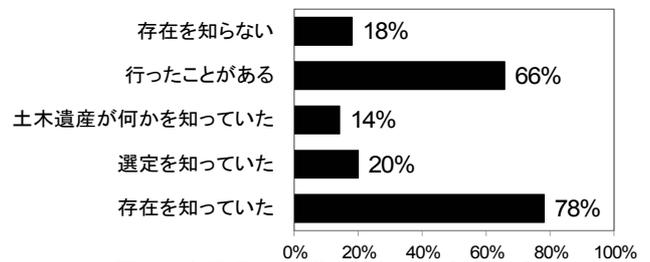


図1 上郷温水路群の認知度や訪問経験

次に、小中学校の授業で上郷温水路群が扱われていることの認知(図2)、またその授業の受講経験(図3)を質問した。授業で扱われていることを知っている被験者および授業を受けたことがある被験者はともに約20%となった。上郷地区では、昭和の頃から上郷温水路群が授業で扱われているとされている。被験者の年齢と現居住地の居住年数から計算すると、多くの被験者は授業を受けたことがある。そのため、この結果は授業の存在を被験者が忘れていないことを意味する。これは、理科や総合学習の題材の中で上郷温水路群が扱われただけで、主たる題材としては扱われていないことが原因と考えられる。

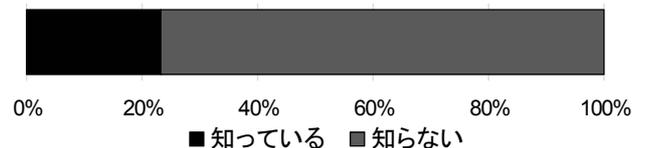


図2 授業で上郷温水路群が扱われていることの認知

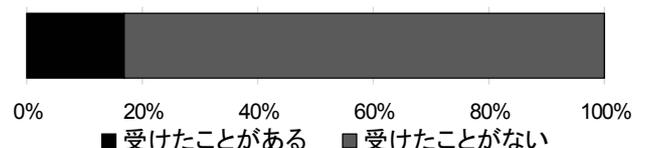


図3 上郷温水路群に関する授業の受講経験

キーワード：地域資源、選奨土木遺産、学校教育、意識調査分析

連絡先：〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1番1号 TEL(018)889-2359 FAX(018)889-2975

授業の受講経験と上郷温水路群の認知（図4）、子どもとの同居の有無と授業で扱われていることの認知（図5）との関係を分析した。授業を受けたことがあると回答した被験者の80%近くが上郷温水路群の存在を知っていると回答した。これは、授業による効果と考えられる。一方で、子どもと同居している被験者とそうでない被験者とでは授業の存在の認知に大きな差は見られない。これは、子どもが授業を受けたとしても自宅で家族とその経験や内容について会話していないためと考えられる。

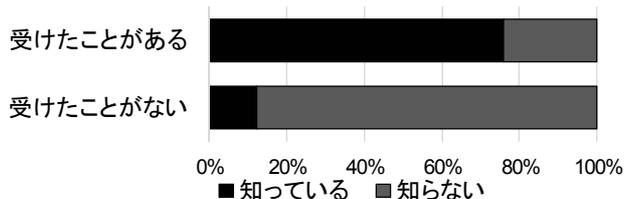


図4 受講経験と上郷温水路群の認知度の関係

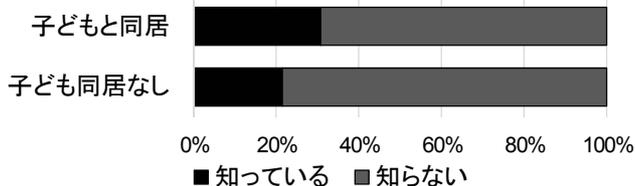


図5 子ども同居の有無による授業の認知

4. 上郷温水路群へのイメージと意識

上郷温水路群を含む4つの地域資源および選奨土木遺産に登録されている男鹿の船川港第一船入場・第二船入場防波堤(船川港土木遺産)について、SD法を用いたイメージ調査を実施した(図6)。上郷温水路群は、船川港土木遺産よりも多くの項目で良いイメージが持たれていることがわかった。しかし、にかほ市の他の地域資源と比べると、イメージの振れ幅が小さいことから、明確なイメージが持たれていない可能性がある。これは船川港土木遺産と同様の傾向である。

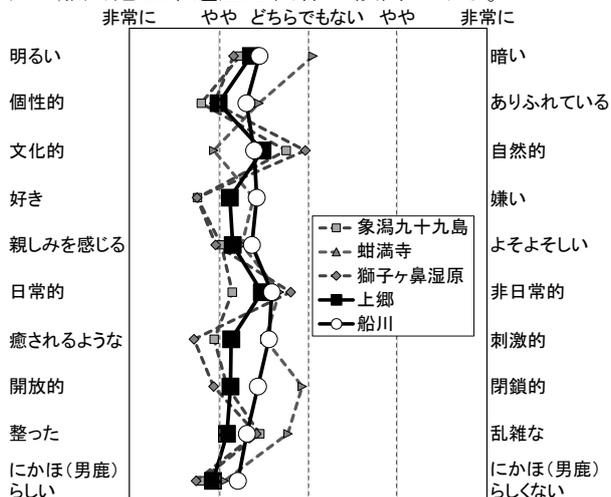


図6 各地域資源に対するイメージ

次に、上郷温水路群を含む4つの地域資源および船川港土木遺産について「残したいと思う」「愛着を感じる」などの4項目に「そう思う」「ややそう思う」と回答した被験者の割合を図7に示す。にかほ市の地域資源は船川港土木遺産よりも高い評価となっている。しかし、その中で上郷温水路群は評価が低い。上郷温水路群の認知によって上記項目の評価を比較した(図8)。「他の地域の人に知ってもらいたい」以外の項目では、上郷温水路群を知っている被験者の方が評価が高い。よくわからない地域資源に高い評価を与えることは困難であり、まずは知ってもらうことが重要であるといえる。

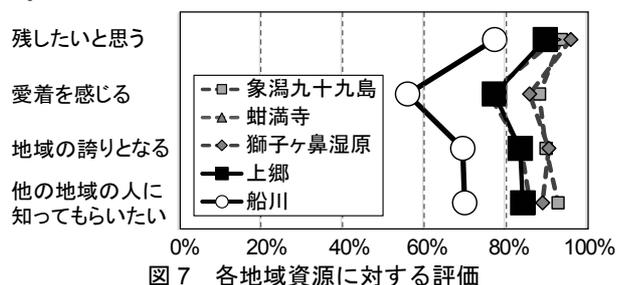


図7 各地域資源に対する評価

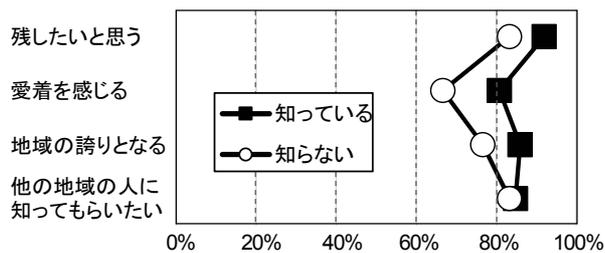


図8 上郷温水路群の認知と評価の関係

5. おわりに

本研究では、にかほ市の上郷温水路群に着目し、教育の題材として扱われることによる効果の把握を行った。上郷温水路群について授業を受けたことがあると認識している被験者は、上郷温水路の存在を知っている割合が高い。すなわち、教育の題材として扱われることによるある程度の効果はみられる。一方、授業を受けているのにも関わらず、それを忘れていた被験者が多くみられる。さらに、子どもが上郷温水路の授業を受けているのにも関わらず、親が授業の内容を知らない割合も多くみられた。今後は、上郷温水路群の授業を複数回にわたって行うことや、子どもが家に持ち帰って学習をするような取り組みなどが必要と考えられる。

参考文献
1) 星祐樹、鈴木雄、日野智、後藤文彦：「地域資源としての土木遺産の利活用に関する研究」, 土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集, 2013